

Newsletter

2
2026
January

Mission

医療とアートの協働で演劇ワークショップを開発・実施する事業

演劇人 岩井秀人によるファシリテートのもと、演じることを通じて地域住民と医療者が健康問題について対話し、新たな気づきを得る演劇ワークショップ『ワレワレのモロモロ 健康編』を開発・実施しました。

地域住民と医療者が共に劇を作り上げるプロセスを通じて、従来の対話形式では表出しづらい本音や潜在的なニーズを引き出し、健康問題に対する新たな気づきや相互理解を促す。この創造的な対話を通じて、地域住民の健康リテラシー向上、医療者との信頼関係構築、そして地域社会全体の健康増進に貢献することを目的に行いました。

Event 1

ワレワレのモロモロ健康編
一般の方対象

11月7日(金)18:00～21:00 筑紫南コミセン

劇にしたのは「母親が癌と診断されてショックを受けており、その上に父親の温かみのない対応にも心を痛めている。母親がこのことを娘である自分に電話で打ち明けているが、励ます言葉を見つけられずに思い悩んでいる。」というもの。

劇の後は全員でシェア。母が望んでいるであろうことや父の気持ちが徐々に見えはじめ、母を受け止めてあげることの大切さが浮かび上がってきました。



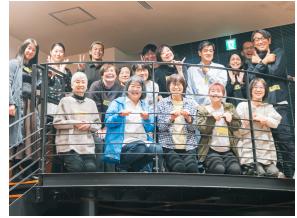
Event 2

ワレワレのモロモロ健康編
一般の方対象＋医療関係者対象

11月8日(土)14:00～17:00 九州大学医学部

かつて多発性骨髄腫を患った父親に付き添って病院に行った体験を取り上げて劇化を行っていった。配役と状況設定だけを行って即興で演じていく。娘（本人）は当時父に言えなかったいらいらした気持ちを声に出していました。

医者の前にいる患者の気持ち、コミュニケーションの難しさ、演じることで相手の気持ちが理解できるようになる演劇の力、医療への希望等、多岐にわたって感想や体験が語されました。



Event 3

ワレワレのモロモロ仕切ってみよう！ファシリテーター養成講座

11月9日(日)14:00～17:00 筑紫南コミセン

参加者がファシリテーターとなり、体験を劇化するワークを進行し、判断が難しい場面や迷う場面で講師が助言を行いました。取り上げた体験は、小学生の時に友達を傷つけてしまった忘れられない体験と、子どものころに父親から理不尽に叱られ家から追い出され、母親の冷たいことばに傷ついた出来事です。

役割や場面設定、体験の詳細な聞き取り、状況の整理、動き出しや終わりの合図、演者や観客へのインタビューなど、ファシリテーターには多様な役割が求められました。こうしたプロセスを通して、一人の体験を参加者全員で共有し理解できることが明らかになってきました。



Member

演じて考える協議体

この事業は、明治安田生命保険相互会社から「福岡県共助社会づくり基金」への寄附金を活用して実施しています。

【NPO法人えんげき広場cue】企画運営、広報、参加者のリクルート、ファシリテーターの育成を担当する。

【WARE】演劇家の専門性を生かして、プログラムの作成、メインファシリテーターを担当する。

【九州大学大学院医学研究院 地域医療教育ユニット】地域医療に詳しい医師（総合診療専門医）として、

プログラムの設計や医療者のリクルート、参加者の心理的安全性の確保とケアを担当する。

ふくおか 演劇ワークショップ ワレフレのモロモロ健康編

Inpression 参加したみなさんから感想をいただきました。

Event 1

ワレフレのモロモロ健康編 一般の方対象

ひとの人生の1ページを聴いて、演じて、観て、新たな自分を発見できる。演劇の良いところを凝縮したような時間でした。また、健康がテーマでしたが、それはイコール死がテーマであることが、発見であり納得でした。身近な死を語る人自体がとても興味深く、ひとりひとりの語り口にも個性が現れていて、自分もその立場になった時のことを想像してみたりして、楽しみながら同時に内省も深まるようなワークショップでした。

参加して本当に良かったです。ありきたりな表現になりますが、言葉では言い尽くせない素晴らしさがありました。他の参加者からの学びも大きく、自分にはない感覚やコミュニケーションが面白かったです。今日の化学反応がこの先も続いていきそうな感じがします。



Event 2

ワレフレのモロモロ健康編 一般の方対象+医療関係者対象

患者と医師、患者と家族のやり取りを通して、それぞれの立場の思いや考えを体験することができ、患者さん、家族の思いに触れることが出来ました。看護師として働いてますが、診察につく際、少しは今までとは違う視点で観察できるかなと思いました。

今回どちらかと言えば医療関係者に近い立場として参加したのですが、一般の方々からこんなにも医療についてのエピソードや考えを聞けるとは思っていませんでした。私たちと患者様やそのご家族の考えにはズレがあること(これは医療に限らずかもしれません)、ズレを埋めるために医療者の立場としてどうしていけばいいのかなど、様々なことを感じ、考える良い機会となりました。特にあと半年後には働き始める予定の身として、今このタイミングでこのWSに参加できたことは本当に良かったと思っています。いつか弊学でもこのようなWSを開催し、周りの人々にも是非参加して欲しいと感じましたので、いつか企画運営でもご一緒できれば幸いです。



Event 3

ワレフレのモロモロ仕切ってみよう！ファシリテーター養成講座

参加者がファシリテーターを務めることで、岩井さんのファシリを鮮明に感じることができました。

参加させていただき本当に良かったです。言うまでもなく、まずイワイさんが素晴らしい、チームの皆さまの温かさ&ユーモア、細やかな心配り、挙げればキリがないですが、全てありがとうございました。また参加させてください。



演じて考える協議体

お問合せ enzitekangaeru25@gmail.com